

〔編集後記〕

「社会科学ジャーナル」第42号をお届けします。

国際基督教大学は、今年6月15日に記念すべき創立50周年を迎えました。その意味でも本年は、国際基督教大学がこれからの教育と研究の方向性を考えるいい機会の年でもあります。本号では、R.バックレー教授からは21世紀を迎えるにあたって日本を歴史家がどう見るかについて、小泉仰元教授からは内村鑑三とキリスト教との出会いについて、山本和教授からアフリカ開発のために国連と日本政府が果たすべきこれからの役割について、それぞれ大変興味深い論文をご寄稿いただいております。それに加えて、富田麻里さんと上枝朱美さんの博士論文をベースにした力作をも載せることができました。

公開講演会の方では、坂本敏夫氏、堂本暁子氏、T.リベラ元客員教授、牧原憲夫氏、富永健一氏による講演は、いずれも大変好評でした。本号には要旨を載せております。

今後とも、「社会科学ジャーナル」を更に一層読み応えのある学術誌にしていきたい、とわれわれ編集委員は努力していく所存です。

(近藤正規 記)